議事録

1. 会議名
AIと「視覚の力」が拓く創造性とコミュニケーションの未来に関する考察

4.議題
テクノロジー、特にAIが人間の創造性、コミュニケーション、記憶に与える影響について、「視覚の力」をキーワードに考察する。

5. 議論の要旨

5.1. AIとクリエイティブの歴史的変遷

- **1990年代の状況（クリエイター柴山氏の体験談より）**
  - 当時、コンピューターグラフィック（CG）は「機械オタク」の領域と見なされ、広告業界などでは既存のやり方を変えることへの抵抗が強かった。
  - しかし30年を経て、PCやスマートフォンは社会に不可欠なツールとなった。
- **2023年以降のAIの登場**
  - AIは単に仕事を代替するものではなく、文章作成支援や医療診断補助など、人間の活動を助ける「良きパートナー」となる可能性が期待される。
  - これにより、絵や音楽が苦手な人でもAIの力を借りて気軽に自己表現ができるようになり、表現活動のハードルが大きく下がることが見込まれる。

5.2. コミュニケーションにおける「視覚情報」の圧倒的な優位性

- コミュニケーションにおいて、視覚情報が約8割を占め、言葉（言語情報）は約2割に過ぎないという指摘があった。（柴山氏）
- この指摘は、以下の研究データによっても裏付けられている。
  - **記憶の定着率:** 読んだり聞いたりした情報が3日後に記憶に残る割合は10〜20%であるのに対し、**視覚的な情報は65%も記憶に残る。**
  - **学習タイプ:** 人口の約65%は、目で見て学ぶ「視覚優位」の学習者であるとされる。
- **結論:** 人に何かを伝え、記憶に残すためには、図やイラスト、映像といった視覚的要素を効果的に活用することが極めて重要である。

5.3. AIがもたらす未来と新たな課題

- **表現の民主化:** AIが高度なビジュアルコンテンツ（画像、動画など）の制作を容易にすることで、誰もがパワフルな表現ツールを手に入れられる時代が到来する。これは、多くの人がアイデアや感情を、脳が処理しやすい「視覚」という形で発信できるようになったことを意味する。
- **提起された課題（今後の検討事項）:**

- AIが生成する洗練された「完璧なビジュアル」が当たり前になった時、私たちはその価値をどう捉えるべきか。
- 一方で、手作り感のある不器用な表現や、不完全さの中にこそ宿る「人間らしさ」「温かみ」といった価値は、今後どのように評価されていくのか。
- 効率性や洗練された美しさと、人間的な「ゆらぎ」の価値。この2つのバランスをどう考えていくかが、AI時代の表現における重要なテーマとなる。